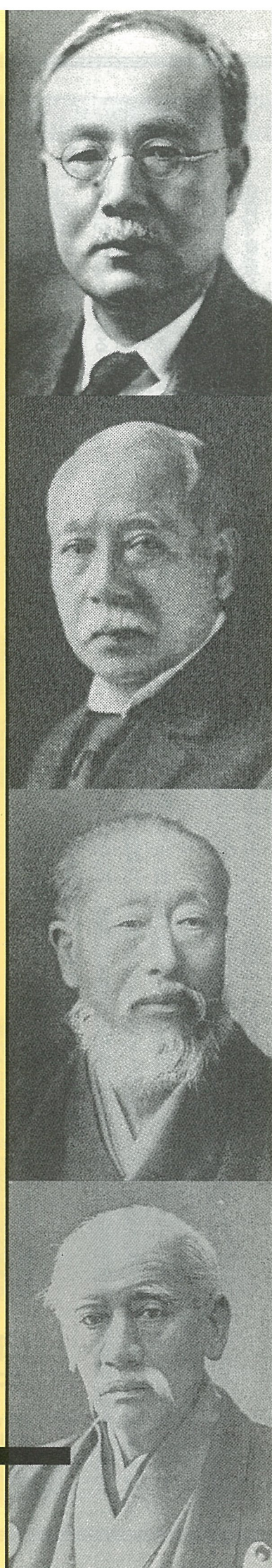


シリーズ
経営者の群像

人物で読む 日本経済史

全14巻・別巻2

ゆまに書房



◆監修 由井常彦
（文京女子大学教授・明治大学名誉教授・財日本経営史研究所専務理事）
◆協力 財団法人日本経営史研究所

近代日本経済の基盤を築き上げた
実業家・経営者たちの大いなる足跡

現在では所蔵機関が限られてしまっている、

史料価値の高い、実業家たちの「伝記」を精選収録。

企業人の意識・行動・人間的相互関係の究明において注目されるのが、その「伝記」である。あたかも功績の羅列のように見えてしまう「伝記」ではあるが、その中には見過ごすことの出来ない貴重な史実の断片が諸処に記されている。本シリーズは、現在入手・閲覧しにくくなってしまったものの中から、史料性の高い「伝記」を厳選・復刻し、研究上の一助となることを意図するものである。



監修のいとは

文京女子大学教授・明治大学名誉教授
(財)日本経営史研究所専務理事

由井常彦

実業家、経営者の伝記は、経済史、経営史、はじめ社会科学の諸分野を通じて、もともと既刊の文献が入手しにくい分野である。

政治家の伝記の場合をみると、明治維新の元勳をはじめ、少なくとも戦前までについては、歴代の首相など代表的な人々について浩瀚な伝記が編纂・公刊されており、主要な大学や国公立の図書館においてほぼ取揃えられている。これに反し、明治時代から戦後まで、日本の産業の発展や経済の近代化に貢献した実業家・経営者の伝記については、代表的なものでも、大学や図書館に収録されているものはごく少数である。また、古書市場などで入手することもほとんど不可能で、多数は稀覯本である。

もともと、実業家の伝記は、会社史と同様に、概して私家本であって、内容的に玉石混淆であるから、取揃える必要に乏しい、という意見があるかもしれない。しかし、良質で貴重な伝記もまた少なくないのであって、実業家の伝記の収集の意義は否定すべくもないのである。

実業家・経営者の伝記のもつ学術文化上の意義や有用性は、改めて説明するまでもなく、非常に広く、かつ高度なものがある。欧米において、ロバート・オウエン伝や、B・フランクリン自伝が今でも刊行され続けていることを想到すれば明らかである。社会科学のディシプリン（専門分野）でいえば、ビジネス・リーダーたる人間主体を直接に対象とする経営史や、個々の人々についても人間主体をいわば集合的に扱う経済史にとって不可欠であることは言うまでもない。いわゆる企業者史（アントルプルヌール・ヒストリー、entrepreneur history）においては、一定の条件のもので共通な行動やタイプの検出を試みる傾向と、個性的（idiosyncratic）であることに意義を見出そうとする傾向とがあるが、どちらの立場にせよ、良質な伝記が第一義的な資料であることには変わりがない。

ところで、会社史については、既刊文献について日本経営史研究所編『会社史総合目録』（改訂版、一九九七年）が刊行されているが、伝記については、網羅的なリストはいまだ作成されていない。ちなみに、去年同研究所と雄松堂書店とが協力して、有用と思われる実業家伝記（明治以降一九五〇年代までに活躍した人々）について調査したことがあったが、その折のリストでは五〇〇人以上の人々について約七〇〇件の既刊伝記が検討された。

さて、今回ゆまに書房によって刊行される実業家伝記の復刻は、ごく少数であるが、主として明治・大正時代における業績の傑出した人々の貴重な伝記を選択している。明治時代といえば渋沢栄一が第一人者であるが、渋沢については『澁澤栄一傳記資料』（68巻）が公刊されているほか、回顧談など関係文献が渋沢史料館（東京都北区西ヶ原）で容易に閲覧できるので、あえて割愛した。日本経営史研究所の協力のもとに今回復刻する伝記は、内容においてすこぶる有用かつ興味深いばかりでなく、文字どおり稀覯本に属するものばかりである。

★ 推薦します ★

偉大な実業家から学ぶこと

昭和電工名誉会長

鈴木 治雄

現在の日本の形成発展ということを歴史的に見ると、たしかに明治維新は画期的な出来事であり、明治の革命的な志士たちの活躍の貢献は偉大であったことは否定出来ない。

その結果、西郷隆盛、勝海舟、高杉晋作、坂本龍馬などに関する文献はすこぶる多い。

しかし、考えて見ると、倒幕、明治政府の樹立の意義は大であるにもせよ、それに続く経済建設なかりせば我日本建設は成就しなかったことは明白である。その意味で日本の資本主義の創始者ともいべき渋沢栄一を始めとする幾多の偉大な実業家の存在を無視出来まい。

例えば、武藤山治、金子直吉、岡琢磨、小林一三、野口道、鮎川義介といった人材が綺羅星の如く並んでいるといつてよい。

現在の日本経済の混乱の中で、それらの人物に学ぶべき点はきわめて多大であろう。従ってそれらの人物の伝記の精選発刊は正に財宝を得たものだとして大きく評価したい。

時代のへだたりを越えた貴重な糧

豊橋創造大学教授

森川 英正

好評だった『社史で見る日本経済史』に続いて、『人物で読む日本経済史』がゆまに書房から刊行されることになった。前シリーズと同様、経営史研究の第一人者由井常彦明治大学名誉教授が監修の任に当たられる。

「会社史」と並んで、経営者の「伝記」は日本の経済史、経営史を学ぶためになくてはならぬ史料である。いや、歴史研究者にとって有用であるだけでなく、現在企業経営のただ中にいるビジネスマンにとって、時代のへだたりを越えて攝取することのできる貴重な糧である。たくさん的人物が織りなすドラマでもあるから、面白さも尽きない。

古書店でないと手に入らない、しかも高価な経営者の「伝記」、紙質も痛み、製本もこわれかけた「伝記」を新刊の体裁にまとめ直して手頃な値段で頒布して下さる。ゆまに書房の好企画と評価したい。第一回配本は6巻5冊だが、全部で14冊刊行する計画だという。期待は大きい。

● 本書の特色 ●

★主として明治・大正・昭和戦前期にかけて活躍した、日本経済史上欠かすことのできない実業家・経営者たちの「伝記」を収録。

★ただし代表的な実業家の「伝記」であっても、所蔵する機関が多数の場合は、これをあえて割愛した。

★所蔵機関が限られており、市場でも目にすることができない貴重な「伝記」の中から、史料価値が認められる水準の極めて高い「名著」を精選した。

★別巻全2巻には、『財界物故傑物伝』上下巻を収録。基本史料でありながら、今日なかなか見ることの出来ない稀覯本である。

第八篇 事業開発の巻

第四十一章 三井合名社理事長就任

三井合名社社長三井男爵に随行しての洋行は社長をして深く君の爲人を感しむるの好機會となり社長の君に對する信用は益々厚くなつた。是より先き三井合名社社長の前身三井同族會管理時代には副部長益田孝三井の各事業管理の任に當り其下に理事朝吹英二があつたが明治四十二年十一月三井合名社の新組織成るや益田は顧問朝吹及び銀行物産の筆頭常務取締役は參事となり益田の専務理事たる君は三井合名社の參事となり三井各事業統理機關たる合名社に一の椅子を占むることとなつた。是は益田が退隱の準備行動であつて益田の後任に三井系の後進が熱心に朝吹を推した者もあつたが益田は實業界に學問は禁物なりとし君が思慮慎重用意周到にして人に接して圭角なく外は柔にして内は剛く益田も屢々意見の衝突を來したほどで一旦決心

第四十一章 三井合名社理事長就任

三三二

実業家や経営者たちの意識・行動・決断……。その大いなる足跡。

第1巻 男爵団琢磨伝 上下巻



故団男爵伝記編集委員会編・発行、一九三八（昭和13）年刊。生没・一八五八―一九三二。大正時代の三井財閥のリーダー。福岡県出身。MIT鉱山学科卒業後工務省の三池鉱山局に勤務。同炭鉱三井家払い下げの後、三井炭鉱の近代化に成功。三井鉱山合名会社専務理事を経て、三井合名理事長に就任し三井王国を築いた。日本工業倶楽部の初代理事長でもある。上下2巻の本書は伝記として価値が高い。

第3巻 莊田平五郎



宿利重一著・対胸舎（宿利重一）発行、一九三二（昭和7）年刊。生没・一八四七―一九二二。大分県出身。一八七五年三菱商會に入社。同社社則・郵船会社三菱会社簿記法を起草。八〇年管事に就任し、岩崎弥之助・久弥時代の三菱のトップに参加。八九年以降の丸ノ内ビジネス街建設を、九七年以降は三菱長崎造船所建設を推進。明治・大正期を通じて三菱財閥の発展に著しく貢献した。本書は三菱の歴史を知る上で不可欠である。

第4巻 私の身の上話（武藤山治）



武藤山治著・武藤金太発行、一九三四（昭和9）年刊。生没・一八六七―一九三四。近代紡績業の経営者。愛知県出身。三井銀行を経て鐘淵紡績に転じ本店支配人、専務取締役を歴任。紡績大合同論を提唱し大鐘紡を築く。一九二一年社長に就任。第1回ILO会議に日本代表として出席し日本の経営を提唱。政界に転じ実業同志会を組織、経済自由主義・政界浄化の理念を追求した。本書は自伝として屈指の存在といえる。

第5巻 古河市兵衛翁伝



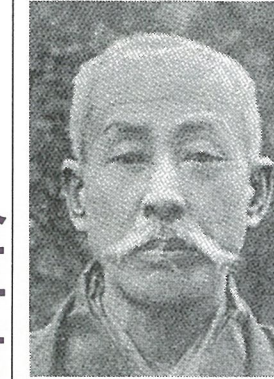
古河合名会社内五日会著・発行、一九二六（大正15）年刊。生没・一八三二―一九〇三。古河財閥の創設者。京都府出身。小野組に入り生糸輸出に従事した後独立し、足尾銅山を買収して経営に成功、事業基盤を確立。以後「運・鈍・根」を経営理念に院内・阿仁等10以上の鉱山を経営し、「鉱山王」「銅山王」と呼ばれた。本書は正伝として貴重である。

第6巻 和田豊治伝



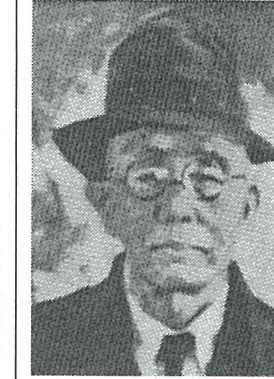
喜田貞吉編・和田豊治伝編集所発行、一九二六（大正15）年刊。生没・一八六一―一九二四。武藤山治と並ぶ紡績業界の雄。大分県出身。日本郵船、三井銀行を経て三井工業部に転じ、鐘淵紡績本店支配人に就任。経営者・技術者として活躍。一九〇一年経営危機の富士紡績に入り再建に成功、一六年社長に就任し、同社を鐘紡に匹敵する企業に発展させた。財界の指導者として期待されつつ、64歳で逝去。

第7巻 菊池恭三翁伝



新田直蔵編・菊池恭三翁伝編集事務所発行、一九四八（昭和23）年刊。生没・一八五九―一九四二。日本の紡績業初期の技術者として傑出した人物。愛媛県出身。一八八五年横須賀造船所、造船局に勤める。八七年平野紡績、尼崎紡績、摂津紡績の三社の支配人・工務長を兼任し、これらの会社の合併によって大日本紡績（現ユニチカ）の社長に就任。以来関西財閥の代表者となる。唯一の伝記である本書はつとに稀覯本として名高い。

第8巻 金子直吉伝



白石友治編著、金子・柳田両翁頌徳会発行、一九五〇（昭和25）年刊。生没・一八六六―一九四四。昭和金融恐慌で破綻した鈴木商店の経営者。高知県出身。一八八六年鈴木商店に雇われ、一九〇二年合名会社鈴木商店に改組と同時に支配人になる。積極的かつ多角的な経営を行い、一大総合商社を発展させ、50数社の関係会社を育成した。先駆的に化学工業に力を入れたことでも有名。鈴木商店の破綻により第一線を退いた。

第9巻 工学博士藤岡市助伝



瀬川秀雄編・工学博士藤岡市助伝編集委員会発行、一九三三（昭和8）年刊。生没・一八五七―一九一八。電気事業・電機工業の先覚者。先駆者。山口県出身。工部大学校電信科卒業後、東京電灯会社技術顧問、技師長を歴任。炭素線電球の初国産化、日本初のエレベーター取り付け等、多くの電気機器を日本に導入。九〇年内国勸業博覧会で米國製スプレー式電車を走らせ、電気鉄道の啓蒙・普及にも尽くした。

第10巻 安田善次郎伝



矢野文雄著・合名会社安田保善社発行、一九二五（大正14）年刊。生没・一八三八―一九二二。安田財閥の創設者。富山県出身。江戸で両替商に奉公した後、幕末に銭両替商安田屋として独立。維新後安田商店と改称。維新の混乱期に貨幣・公債取引で致富に成功。第三国立銀行、安田銀行を創業。八七年設立の保善社（一九二二年合名会社保善社に改組、のちに安田保善社）を中心に安田財閥を形成した。本書は正伝であり、内容的に非常に興味深い。

第11巻 川崎正蔵



山本実彦著・吉松定志発行、一九一八（大正7）年刊。生没・一八三七―一九二二。近代造船業のリーダー。鹿児島県出身。大坂で薩摩藩の物資の輸送・販売に従事。維新後、日本国郵便汽船会社副頭取に就任。七八年築地造船所を開設、払い下げられた官営兵庫造船所と統合して川崎造船所を設立。日清戦争の戦艦受注を機に同社を三菱と並ぶ近代的造船会社に発展させた。明治政府と密接で、政商と称された。

第12巻 男爵近藤廉平伝



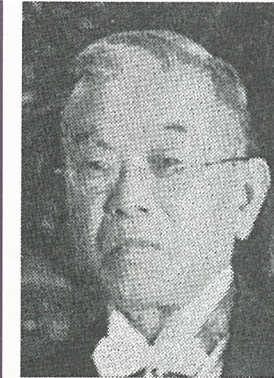
末広一雄著・末広一雄発行、一九二六（大正15）年刊。生没・一八四八―一九二二。日本郵船初代社長。徳島県出身。一八七〇年三川商會（三菱商會）に入り、海運事業合理化に尽力。日本郵船設立と同時に入社し、九五年社長に就任。欧・米・豪の三大航路等を開設し、経営基盤を確立。その他麒麟麦酒・東京電気鉄道・日清汽船・日本セロイド人造絹糸・横浜船渠等にも参加。実業家伝記の古典である。

第13巻 孤山の片影（山辺丈夫）



石川安次郎著・発行、一九三三（大正12）年刊。生没・一八五一―一九二〇。日本の近代紡績業の先駆者。島根県出身。ロンドンに留学し、機械工学、紡績業を研究。帰国後大阪紡績に入社し一八九八年専門経営者の先駆けとして社長に就任。米・中・中国資本と競合し満州に販路を拡大。繊維業への進出と綿布の輸出重点主義を確立。一九一四年三重紡績との合併会社、東洋紡績を設立し初代社長を務める。稀覯本である。

第14巻 根津嘉一郎



宇野木忠著・東海出版社発行、一九四一（昭和16）年刊。生没・一八六〇―一九四〇。鉄道の経営者。甲州財閥の雄。山梨県出身。一八九七年上京し東京電灯の経営に参加。一九〇五年経営不振の東武鉄道社長に就任、沿線の産業開発・観光地開発等を行い経営再建に成功。20数社の鉄道経営に携わり「鉄道王」と呼ばれる。一九二三年には富国徴兵保険（富国生命）を創立し発展させたことでも知られる。

別巻1〜2 財界物故傑物伝 上下 付：解題

実業の世界社編輯局編著、実業の世界社発行、一九三八（昭和11）年刊。実業家・経営者の列伝あるいはそれに類するものは数多くあるが、その中にある、出身・経歴などの記述の詳細さにおいては、本書をおいて他の例を見ない。非常に資料的価値も高く、信頼に足るべきものであるが、現在では入手することが不可能に近い。実業家・経営者の人物史研究においては未だに不可欠の書であり、有益な文献である本書は、明治維新以降約70年の間に活躍した実業家たち約三七〇名の略伝を収録している。

豊田 佐吉（發明の天才）

發明五拾年記念の標語に『伸びよ發明、世界の日本』といふのがある。今に適してゐないといふやうな固陋な考を抱いて居る者はあるまい。斯ういふ中でも、織機王故豊田佐吉の足跡こそは、誠に偉大にして不滅の光輝を放つ業飛躍の推進桿となり、廣く強く社會的經濟的に影響を及ぼした。世界的に飛躍しつつある綿業日本の建設と彼の發明事業とは離るべからず。彼は慶應三年二月十四日、遠州宇津山領吉津山口（今の静岡縣濱名郡津

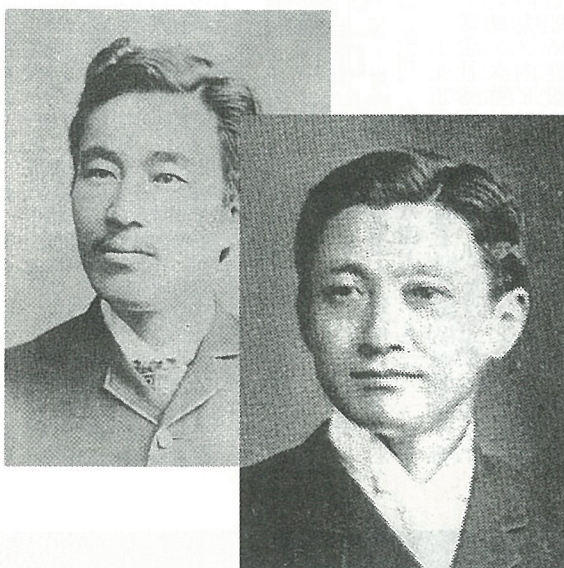
シリーズ
経営者の群像

人物で読む日本経済史

全14巻＋別巻2 A5判上製／函入●揃定価：本体317,000円＋税 ISBN4-89714-599-6 C3323

日本経済史・経営史の研究にとって「伝記」は極めて重要な史料群であることは言うまでもない。それは単なる人物史や企業史にとどまらず、ターニングポイントにおける経営者の決断のプロセスや、運営システムの解明をもたらすものであるからである。

小社では、これら企業の経営者にスポットを当て、経済人を通して、日本の経済史・経営史・政治史・文化史・社会史研究の資料を提供すべく本シリーズの刊行を開始いたします。



●関連企画●

* 詳細内容見本謹呈

社史で見る日本経済史 全17巻＋別巻1

■解説：由井常彦

(文京女子大学教授・明治大学名誉教授・(財)日本経営史研究所専務理事)
戦前から刊行されている様々な分野の企業史の中から「古典」的名著といわれるものを精選収録。いずれも高い実証性と資料的価値を備え、単なる社史に止まらず近世から近代にかけての第一級の産業・文化資料となっている。企業活動の軌跡から、資本社会の変遷を体系的にとらえる好資料である。

A5判上製・函入●全巻揃定価：本体368,000円＋税
(各巻分売可) ISBN4-89714-287-3 C3321

●第1回配本●《既刊》

●全6巻揃定価：本体120,000円＋税
ISBN4-89714-584-8 C3323

- 第1巻●男爵団琢磨伝・上巻 (S13)
定価：本体22,000円＋税 ISBN4-89714-585-6 C3323
- 第2巻●男爵団琢磨伝・下巻 (S13)
定価：本体21,000円＋税 ISBN4-89714-586-4 C3323
- 第3巻●莊田平五郎 (S7)
定価：本体20,000円＋税 ISBN4-89714-587-2 C3323
- 第4巻●私の身の上話 (武藤山治) (S9)
定価：本体13,000円＋税 ISBN4-89714-588-0 C3323
- 第5巻●古河市兵衛翁伝 (T15)
定価：本体16,000円＋税 ISBN4-89714-589-9 C3323
- 第6巻●和田豊治伝 (T15)
定価：本体28,000円＋税 ISBN4-89714-590-2 C3323

●第2回配本●《平成10年12月刊行》

●全10巻揃定価：本体197,000円＋税
ISBN4-89714-598-8 C3323

- 第7巻●菊池恭三翁伝 (S23)
定価：本体21,000円＋税 ISBN4-89714-600-3 C3323
- 第8巻●金子直吉伝 (S25)
定価：本体15,000円＋税 ISBN4-89714-601-1 C3323
- 第9巻●工学博士藤岡市助伝 (S8)
定価：本体26,000円＋税 ISBN4-89714-602-X C3323
- 第10巻●安田善次郎伝 (T15)
定価：本体21,000円＋税 ISBN4-89714-603-8 C3323
- 第11巻●川崎正蔵 (T7)
定価：本体14,000円＋税 ISBN4-89714-604-6 C3323
- 第12巻●男爵近藤廉平伝 (T15)
定価：本体22,000円＋税 ISBN4-89714-605-4 C3323
- 第13巻●孤山の片影 (山辺丈夫) (T12)
定価：本体20,000円＋税 ISBN4-89714-606-2 C3323
- 第14巻●根津嘉一郎 (S16)
定価：本体9,000円＋税 ISBN4-89714-607-0 C3323
- 別巻1●財界物故傑物伝 上巻 (S11)
定価：本体24,000円＋税 ISBN4-89714-608-9 C3323
- 別巻2●財界物故傑物伝 下巻 (S11) 付：解題
定価：本体25,000円＋税 ISBN4-89714-609-7 C3323

●お薦めしたい方●

日本近代経済史・経営史・政治史・社会史・
文化史などの研究機関および研究者、
企業の資料室、大学・公共図書館など

ゆまに書房

お取扱いは……………

〒101-0047

東京都千代田区内神田2-7-6

Tel.03 (5296) 0491

Fax.03 (5296) 0493

http://www.aplink.co.jp/yumani